

吉川新研究科長と懇談!!

平成28年4月、吉川成司教授が創価大学教職大学院第3代研究科長に就任されました!吉川先生は、創価大学教育学部卒で、学校教育心理学がご専門。その柔和な笑顔と学生第一の教育方針で、教職大学院を平成20年の開設以来、一貫して支えて来られました。そんな就任間もない吉川先生を、「教職大学院ニュースレター」編集部が突撃取材しました!

○編集部:大学教授になられたきっかけというのは、どのようなものでしたか。



吉川研究科長:特に強いきっかけがあったわけではありません。大学で自分は勉強したのだろうか、何もしなかったのではないだろうかという疑問から、大学院に進みました。初めは教育学について勉強していましたが、自分には合わないような気

がしたので心理学を勉強するようになりました。

○編集部:学生時代に読まれた本で、何か印象に残っている本 はありますか。

吉川研究科長:小此木啓吾の本です。当時"モラトリアム"という言葉が流行していたので、読んだことを覚えています。

○編集部:教職大学院の学生に身につけてほしい力は何でしょうか。

吉川研究科長:抽象的なことと具体的なことがあります。抽象的なことでは、教職大学院の三指針である「子どもの幸福を目指す慈愛の教育者たれ!」「生命の尊厳を護り抜く正義の教育者たれ!」「平和の世界を創造しゆく英知の教育者たれ!」を、自分だったらどのように受け止めるのかを考えてほしいと思います。そのままの言葉通り受け取るのではなく、教員として「こういう意味だ」と、自分の言葉で言えるようになってもらいたいのです。そうでないと、教職大学院に来た意味がないと思っています。具体的なことでは、本を読み、知のルーティーンを身につけるようにしてほしいと思います。常に、世の中の教育にかかわることに関心をもつとか、文部科学省からのメールマガジンを受け取って読むとか、そういう知のルーティーンを身につけてほしいと思います。

〇編集部: 学生へのアドバイスはありますか。

吉川研究科長:論文を書くときに、自分の書きたいものというのはだいたいが書きにくいものであったり、大きすぎたりします。その中からどこかを生かすようにして、書きやすい形で書くようにするとよいのです。論文を書いて終わりという訳ではありません。学び続けていく、研究を少しずつ積み重ねていく、その長期戦の第一歩としてほしいと思います



○編集部:教職大学院の魅力とは、何でしょうか。

吉川研究科長:現職の教員と学生がともに学べることが、教職大学院の最大の特徴の一つです。「教職大学院」という、日本の教育の歴史の中にある教員養成の最先端を走っているというのはすごいことです。また、創価大学教職大学院ということに特化していえば、教育を大切にされている創立者がお元気でいらっしゃるときに、創立者のもとで学べるということが一番の魅力ではないでしょうか。

○編集部:現在取り組まれている研究は、どんなことですか。

吉川研究科長:夏季に大学で行われる教員免許状更新講習の 講座に向けて、「生活習慣と生徒指導」、「ポジティブ心理 学」について研究しています。また、2018年度から大学の授 業で使用するための、「発達心理学」というテキストを作っ ているところです。

○編集部:修了生へのメッセージがありましたら、お願いします。

吉川研究科長:体を大事にしてほしいと思います。体調を崩して休んでいるという話を聞くと、いつもそう思います。修了生の皆様が、いつでも気軽に教職大学院に戻ってこられるといいですね。総会でなく、小さな単位でもよいので、修了生と学生との交流がもてると良いと思います。そして、教職大学院創立20周年に向けての最大のポイントとして、ますますの発展へ向けて、なるべく多くの人に受験をしてもらいたい。ぜひ、タテのつながり、ヨコの広がりを作っていってほしいと思っています。

〇インタビューを終えて…

在学生のみではなく、卒業生のことをひたすらに思われている姿にとても感銘を受けました。また、創立者の思いを受けて、真剣にお話をされている吉川先生が印象的でした。このような先生の下で学べる環境に感謝の思いを忘れずに、勉強したいと思いました。吉川先生ありがとうございました!



桜梅桃李ミーティング!!

桜梅桃李ミーティングとは、女子院生が縦のつながりを更に深めていくために月に一回行っているミーティングのことです。一人一人が自分らしく輝けるようにと思いを込めて、この組織の名前を「桜梅桃李」にしました。また、年間テーマを「子どもの笑顔を咲かせる人間教育の体現者に」と決め、活動を行っています。具体的な活動としては、創立者の著作である「わが教育者に贈る」を研鑽したり、皆で食事をしたりしています。

教職大学院には、「学びの場」 「出会いの場」がいっぱい。

近況や、悩みを話したり、皆でくだらないことを話したりします。この時間は、女子院生にとっては、かけがえのない時間になります。授業でのディスカッションをする機会は多いのですが、このように楽しく話すことで仲良く楽しく過ごすことができます。

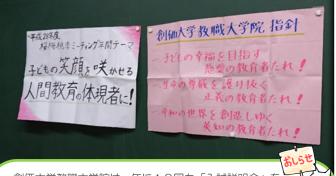
また他には、「女子教育者 の使命」について研鑚をしま した。資料として、創立者と



ハンス・ヘニングセンさんとの対談集『明日をつくる"教育の聖業"一デンマークと日本 友情の語らい』(潮出版社)とヘイゼルヘンダーソンさんとの対談集『地球対談輝く女性の世紀へ』(主婦の友社)を読みました。参加したメンバーは、実習中に感じたことや、働いていて感じる女子教育者



としての使命を皆で話しました。このように勉強していく中で、普段の授業では、語り切れないことを話すことができます。また、普段はなかなか話す機会が取れない先輩・後輩とも話し合えるので、毎回とても有意義な集まりになっています。



創価大学教職大学院は、年に10回も「入試説明会」を 開催してるよ。お友だちにどんどん紹介してね!! 詳しく は、kyoshoku-d@soka,ac,jp までメールしてね!!

院生に聞く!ここが私のお気に入りスポット!!

教職大学院生が日々学びを深めている創大キャンパス。そこで、院生のお気に入りスポットを調査しました! 1位から3位までのスポットとその理由を紹介します。

自習室 (教職大学院棟)

「自分専用のスペースがあり、やりたいことに打ち込める。」「勉強に集中できる一番の場所。」「広くて大きい机が気に入っている。」「職場のような雰囲気でホッとする。」(教職大学院生全員に一人1台の机が割り当てられるのだ!)

学生ラウンジ (教職大学院棟)

「お昼の時間や授業後など、みんなと語り合える場所だから。」「皆が話している姿をみると落ち着く。」「窓から外を見ていると落ち着く。」「教育雑誌や教育新聞を読める。」「仲間とざっくばらんに話せる。」

閉架書庫 (中央図書館)

「閉架書庫に自由に入れる!」「本の匂いがたまらなくいい!「書庫でないと、あの匂いはしない。」 「沢山の本があって関心が広がり、学びの場になる。」「時間を忘れて夢中になる!」「普段見つからない本や資料との出会いがあるから。」

その他には、タゴール広場、ニュープリンスホール、学生ホール、中央教育棟、本部棟、創大正門付近、池田記念講堂周辺、周桜前など多くの場所が挙がりました。皆それぞれ様々な場所で気持ちを新たにし、貴重な学びの時間を過ごしていることが分かりました。そんな創大キャンパスに是非足を運んでみて下さい。

明年2月23日、創価大学教職大学院・八王子市教育委員会連携事業「平成28年度八王子市アクティブ・ラーニング推進校」プログラム成果報告会を開催予定!!

独立行政法人「教員研修センター」の委嘱を受け、一年間に亘り取り組んできた本学教職大学院と八王子市教育委員会の連携事業「平成28年度八王子市アクティブ・ラーニング(AL)推進校」プログラム参加5校が、AL型授業の具体や挑戦を報告します。のより方についての討議も。詳しくは、教職大学院HPをご覧ください(近日公開)。



今回の「教職大学レ 院ニュースの ター」第3号の発 刊に伴い、編集委 員の方々や、宮崎

三津村先生には大変 にご尽力頂きました。誠に 有難うございました。様々 な方々の思いが一つとなり 発刊することができまし た。今回、編集長と 刊に携わらせて頂く中で、 読者の方々の読み易さを何 より一番に考えました。ま 、卒業生や受験生にとっ どのような記事が希望 となるのだろうと編集委員 と話し合いました。話し合 を重ねる中で、編集委員 自身が教職大学院の魅力 を、改めて再発見すること もありました。このような 貴重な機会を頂けて感謝の 思いでいっぱいです。 教職大学院ニュースレ が読者の方々にとっての希 望となるよう心から願って おります! (編集長)

教職大学院ニュースレター 第3号編集部

【編集長】

賀田 純江(すーちゃん) 【編集部】

橋川 誠(じゃぱ) 中島 拓弥(なかじ)

太田 進(オーティ) 大城 威(ジャイ)

内山 智未(ウッチャン) 櫻井 澪(みおちゃん) 佐藤 友彦(さとぅー)

あなたもニュースレター作りに参加しませんか?

編集部員・記事投稿者募集!! 編集部員の明年度の大量卒業 につき、またもや編集部員不 足。編集や校正に興味のある 方(現役生)、或は記事を投 稿したい方(修了生含む) は、編集部までご連絡を!!